

令和7年度学校評価(重点目標) 松本筑摩高等学校 通信制

評価欄：A・B・Cの3段階（A：成果が見られた、B：向上が見られた、C：改善が必要である）

学校教育方針		中・長期目標			
定通の和を尊び、理想の追求を象徴する校章と校歌に示された精神をもとに、 1. 知性の涵養 2. 品性の陶冶 3. 心身の練磨を目的とする。		「心あらたな学び直し」、「限られた時間を活かしての学び」、「働きながらの学び」を願う生徒が安心して学習できる環境をつくり、社会の一員として生きる力を育成する。			
		今年度の重点目標			
		1 いじめや暴力を絶対に許さない安心・安全な学校をつくる。	3 生徒の力を引き出す「わかる授業・伸ばす指導」を工夫し、学力の定着・伸長を図る。		
		2 社会人基礎力（特に挨拶ができる力）を育てる。	4 地域に開かれ、地域とつながる学校をつくる。		
分野	重点項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策
全般	キャリア教育の推進	自己肯定感や他者と関わる力を育むため、教科指導・「総合的な探究の時間」・行事等の学校諸活動の中で、キャリア教育的観点に立った体験活動を体験させることができたか。	B	【成果】 レポート学習やスクーリングを通して基礎学力や社会性を育成することができた。職業適性検査はハローワークによる結果解説を個別に行い、自己理解や進路を考える機会となった。また、県の「キャリアチャレンジバスツアー」やハローワークの「事業所見学」など外部の行事へも参加した。情報はグループワークやさまざまなネットを活用し発信した。 【課題】 様々な生徒に対してキャリアデザインの意識づけをどのように行うかが課題である。	・ホームルーム活動、教科指導など、学校生活全般の活動の中で社会人基礎力としてのキャリア形成に取り組む。 ・ホームルーム担任との連携により、早い時期から意識づけができる様に適切な情報提供や引継ぎを行う。 ・午前部午後部や外部との連携により、体験的な活動の充実。 ・マイポートフォリオの活用や「就職チャート」の学習を通して自己理解や他者との関わりを体験的に育む。
教育課程	教育課程	各設間に評価の観点を付記したレポート作成を検討し、学期末、年度末の事後評価に終始するのではなく、教員の指導改善、生徒の学習改善につながる観点別学習状況の評価を意識したレポート添削や教科指導を行うことができたか。	A	【成果】 令和8年度から使用する総合的な探究の時間を含めたすべての教科・科目のレポートに、観点別学習状況の評価を付記し作成することができた。 【課題】 通信制の学習システムで観点別学習状況の評価を実施していくためには、教員の教科指導改善はもちろん、生徒の観点別学習状況の評価に対する認識を改善していく手でも工夫していかなければならない。	・面接時に観点を明示する、学習の振り返りを行う機会を設定するなど、改善していきたい。 ・レポート課題中心の学習は3観点の偏りがみられるため、スクーリング内容やレポート添削指導を見直し、生徒の観点別学習状況の評価に対する認識の改善にもつなげていきたい。
		添削指導や授業において、個々の生徒の単位修得につなげられるよう、指導内容や指導方法の工夫、改善を図ることができたか。	A	【成果】 ・添削指導では、分かりやすく丁寧なアドバイスに努め、多くの生徒の単位修得に結びつけることができた。今年度前期は78.8%ということ、昨年度の81.6%には及ばなかったが、比較的高い結果に終わった。 ・スクーリング（面接授業）では、ICT機器の活用や補助プリントの配布等、分かりやすい面接を工夫した。期末テスト前には「学習相談期間」を設定し、より丁寧な個人的レポート指導を行った。 【課題】 ・毎年の課題ではあるが、一部の生徒は、レポート提出やスクーリング出席が満たせず、単位修得に結びつかなかった。	・引き続き、個々の生徒の詳細な情報共有に努め、より多くの生徒の単位修得につながるような面接指導、レポート添削に努める。 ・「学習相談期間」だけに限らず、年間を通して個別指導を懇切丁寧に行う。そのためのHR担任や教科担当者からの声がけを密に行う。
学習指導	添削指導及び授業の工夫・改善	計画的に学習を進められるよう、学習意欲を喚起するための情報発信や支援ができたか。	A	【成果】 ・「きずなネット（メール配信）」は毎回のスクーリング後には必ず行い、タイムリーな情報発信に努めた。また、レポートの締切日等の重要期前には、再三再四情報を発信した。 ・情報誌『筑摩』を年6回発行し、学校、生徒、保護者等とで情報を共有することができた。各HR担任においても、Google Classroomによって随時連絡をとるよう努めた。 【課題】 ・これも毎年の課題ではあるが、一部の生徒は、「電話」を始めとする情報通信システムでは連絡がつかなくなってしまう。	・「きずなネット」や情報誌『筑摩』はさらに充実したものとなるよう、内容の精選を行う。 ・導入して5年目となるGoogle Classroomも、HRだけではなく教科、科目、地区会等で積極的に活用し、随時適切な情報発信に努める。 ・登校が少なかつたり、連絡が取りにくかつたりする生徒に対しては、保護者等にも電話連絡を行い、重要情報は確実に伝わるよう配慮する。
		学校生活を送るうえでふさわしい態度やマナーを身につけさせることができたか。（面接授業、行事、学習室の利用方法、バイク・自動車通学など）	B	【成果】 生徒同士や職員と生徒とのトラブルはほとんどなかった。学習室でのマナーも守られて、静かに勉強している姿が見られた。 【課題】 今年度、レポートの不正行為が何件かあった。自ら調べて、考えて書くことの大事さについて生徒に伝えていきたい。	・ロングホームルーム時に学習のしおりを活用させて、学校生活における諸注意について生徒に理解させる。 ・スクーリング時の見回りで、空き教室や学習室での生徒の様子をしっかりとしていきたい。
生徒支援	安全・安心な学校づくり	互いの人権が尊重された安全で安心な環境づくりが具体的になされたか。（IDカード、立ち番、校内巡視、SOSの出し方教育など）	A	【成果】 保健室や相談室で職員から助言をしてくれたことで心を安定させて学校生活を送ることができた生徒がおり、よい場所となっている。校内の見回りでの気になることもほとんどなかった。 【課題】 本校生徒とは限らないが、校外での喫煙の形跡があるため、巡視等をさらに徹底していきたい。	・生徒が安心して学習に取り組める、居心地の良い環境を整えていくようにする。 ・スクーリング時の朝の立ち番では、来校した生徒一人ひとりに必ず声掛けをして様子を伺い、気になることがあったら生徒支援部の職員で共有し場合によっては、担任に報告する。
		命の大切さへの理解を深めさせると同時に、個々の生徒が抱えている課題を共有し、学習活動につなげる支援ができたか。	A	【成果】 今年度も様々な生徒が入学してきた。職員間での情報共有がしっかりとできた。また、医師やSCと連携し、生徒のサポートができた。 【課題】 問題を抱えている生徒の情報をできるだけ早くに部内で共有できる体制を考えていきたい。	・個々の生徒が気軽に相談できるような居場所を作っていく。 ・特別支援委員会を定期的に行い、保健室や相談室に来ている生徒の情報を共有していきたい。
進路指導	進学、就職指導の充実	個々の進路希望を把握し、本人の希望、適性に沿った指導ができたか。	A	【成果】 ・進路希望調査を基に担任と連携するとともに、Google Classroomを活用し就職と進学それぞれの情報提供および個々の支援をきめ細やかに行うことができた。就職の一次合格者は昨年より増加。進学も推薦入試を中心に希望に沿った結果を出すことができた。 【課題】 ・一度の不合格が、本人に深刻な心理的影響を与える事例があった。 ・自分のペースを重んじること、社会的なルールやマナーを守ることのバランスに課題を感じる事例があった。	試験結果の心理的影響 ・生徒個々によって適切な対応は異なり、正解というものはない。生徒を最もよく知り、寄り添える担任の存在が不可欠であり、連携して支援する体制が重要であると考えている。
		進路ガイダンス等を通して、情報を提供し、上級学校や職業について理解を深めさせることができたか。	A	【成果】 ・奨学金ガイダンス、職業適性検査、進路ガイダンス、進路講演会、定時制の分野別ガイダンスへの参加は前年並みに実施できた。面接マナー講座は通信制の実情に沿った内容に改めることができた。昇降口と進路コーナーに進路だよりと外部のイベント等の案内を掲示・設置し、タイムリーな情報発信に努めた。3月の事業所見学に1名参加予定。 【課題】 ・就職内定先や進学先合格状況が、進路だより等でオープンになっている。（職員からのコメント）	自分のペースと社会的なルール ・通信制の学習のペースは柔軟でよいが、進路決定に関わる時期は進路活動を優先することを当たり前にする雰囲気作りが必要。早い時期から担任・本人・保護者・進路係の全体で共有する。
生徒活動	生徒自主活動の充実	生徒の自主的な活動を促し、生徒会行事、地区会行事などを足掛かりに、社会・地域と関わる姿勢を支援することができたか。	A	【成果】 各行事の企画、準備、運営を支援することができた。いずれの行事も昨年度より参加者が増加した。 【課題】 生徒会・地区会行事に消極的な生徒が多数いるが、通信制課程ということと限界があると感じている。そういった生徒が「参加してみようかな」と思える行事にしていこうと、いずれの行事も準備に多くの時間を割けないことが課題である。	登校日が少ないこと、多くの生徒会役員がアルバイトなど学校外の活動と両立していることをふまえ、その中で生徒の積極的な気持ちに寄り添えるような支援を考えていきたい。
		生徒のデータ管理と正確な資料づくりにより、校務と各指導を円滑に進めることができたか。	A	【成果】 ・C4thによる生徒個人データの集約をデータ係、HR担任等、複数のチェック体制で行い、確実なデータ管理に努めた。 ・体験入学や学校説明会等での関係生徒へのアンケート調査や入学者の個人データを分析することで生徒の傾向を把握し、学校運営に活かすことができた。 【課題】 ・情報セキュリティ対策の更なる徹底と職員の理解が必要。	・複数によるチェック体制をさらに充実させ、管理規定に従った情報管理、セキュリティ強化を徹底する。 ・集めたデータを学習指導や校務に適切に活用する。
学校運営	円滑な学校運営	校内施設、設備の不備を点検し、安全で、学習しやすい環境づくりのため、改善を図ることができたか。	B	【成果】 ・各教室等の点検・状況把握をした上で、今年度は耐震性を重点に棚やロッカー等の固定を実施することができた。相談室も夏の間別教室に移し、暑さ対策を試みることもできた。 【課題】 ・まだ物が積みあがっていて危ない箇所がある。 ・エアコン設置の見直しが出てきたが、全ての教室ではない。 ・修繕等が必要な設備がまだ多く残っている。	・エアコン設置や設備の修繕の必要性を引き続き伝えて改善をはかりたい。 ・生徒アンケートの意見などを拾い上げて環境改善に努めていく。
		本校に求められた役割を職員間で共有し、行事や学校運営全般にわたる適切な見直しや改善を進めることができたか。	B	【成果】 ・ビジョン委員会を通じて、現状の課題を職員間で共有した。とくに改善すべき問題については各分掌に検討をお願いし、来年度からの変更実施も可能にした。 【課題】 ・公立通信制高校としての課題意識を常にもち、情報交換や課題検討が活発にできる分掌組織を機能させる必要がある。	・通信制高校の全国ネットワーク（全通研、中通研）を活かし、情報共有や問題の共有をすすめていく。また、県内公立通信制高校（長野西高、望月アイト校）とも情報交換を行い、公立の強みを最大限発揮できるようにする。 ・ビジョン委員会、各分掌、学年会、教科会等、気軽に話し合える関係性や雰囲気作りも大切にする。
開かれた学校づくり	開かれた学校づくり	情報誌『筑摩』やホームページに掲載する内容の工夫改善を図り、わかりやすい情報を提供できたか。	A	【成果】 情報誌『筑摩』については、8割以上の保護者が学校評価アンケート中で概ね「分かりやすい」との回答をいただいた。「良く読む」「たまたま読む」との回答は9割以上である。 ・学校行事等の情報は、最新のものを迅速にホームページに掲載することができた。	・次年度更新される本校ホームページへの情報掲載を、保護者等はもちろんのこと、中学生や他校生にも分かりやすい内容にしていこうと心がける。
		保護者や地域との連携強化を図る取組を行うことができたか。	B	【成果】 ・通信制文化発表会や心の健康講座へは保護者等の参加もあり、一定の理解を示していただいた。 【課題】 ・通信制高校としての、地域関係者の皆様との関係作りや連携強化。	・生活体験発表会や通信制文化発表会等、保護者の参観も可能であるという行事とし、情報誌『筑摩』や「きずなネット」での広報を行う。 ・地域との連携強化は、まず何ができるかの検討から始める。